

三浦友和
檀　ふみ
倍賞美津子
望月真理子
高橋ひとみ
森川千恵子
山本伸晋
片平なぎさ
加藤治子
名古屋章
有島一郎
芦田伸介（特別出演）
高峰三枝子

あいつと私

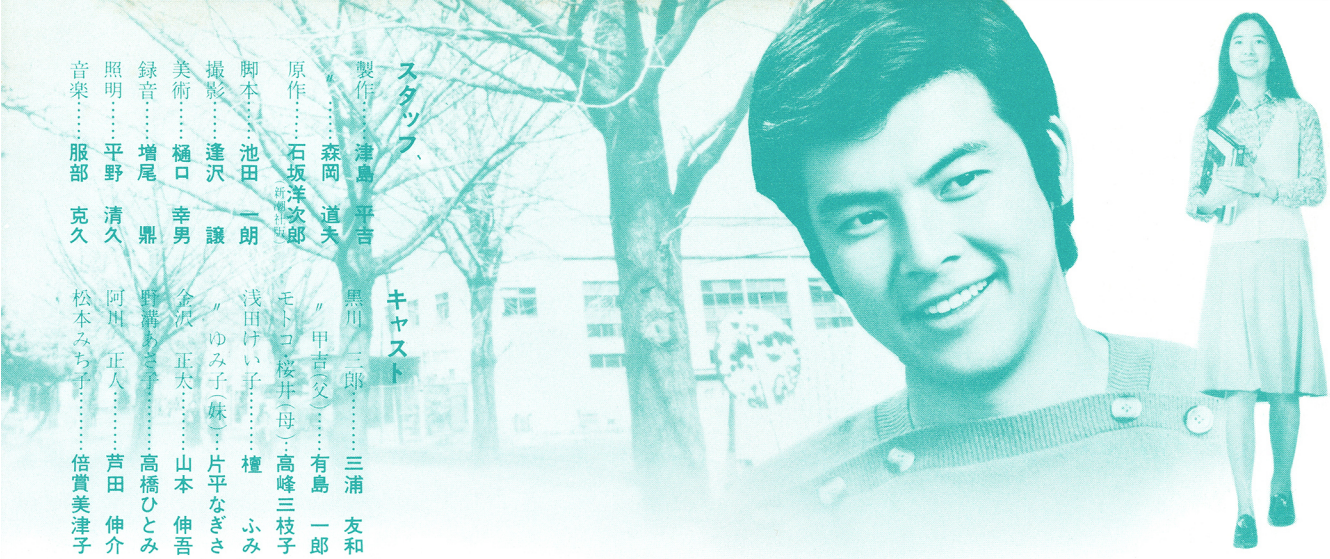
原作■石坂洋次郎（新潮社版）／監督■河崎義祐

〈カラー作品〉企画■株式会社東宝企画／東宝映画・東宝映像提携作品／配給■東宝株式会社
製作■津島平吉／森岡道夫／脚本■池田一朗／撮影■逢沢　譲／美術■樋口幸男／録音■増尾　鼎／照明■平野清久／音楽■服部克久

くやしいけど 私の胸の中に大きなあぐらをかいて居すわってしまった あの憎い"あいつ"

東宝

4月24日封切 東宝



スタッフ、キャスト

製作……津島平吉
〃……森岡道夫
原作……石坂洋次郎（新潮社版）
脚本……池田一朗
撮影……逢沢譲
美術……樋口幸男
録音……増尾鼎
照明……平野清久
音楽……服部克久

黒川三郎……三浦友和
〃甲吉（父）……有島一郎
モトコ桜井（母）……高峰三枝子
浅田けい子……檀ふみ
〃ゆみ子（妹）……片平なぎさ
金沢正太……山本伸吾
野溝あさ子……高橋ひとみ
阿川正人……芦田伸介
松本みち子……倍賞美津子

かいせつ

「陽のあたる坂道」に続いて贈る、三浦友和・檀ふみのコンビによる石坂洋次郎文芸シリーズです。昨年の正月映画「伊豆の踊子」でデビューした三浦友和の昨年の成長は素晴らしく、今や、日本一の人気男優にまで成長しました。この「あいつと私」は過去に、日活で石原裕次郎主演で映画化されています。社会的に一風変った家庭に育った大学生に三浦友和、彼は社会的にははみ出した考えと行動を示すが、非常に自分にすなおに生きる男っぽい魅力ある人間です。「陽のあたる坂道」と似たような大学生もので興行的には安心できる作品になると思います。演出は、「挽歌」でいちじるしい成長をみせた河崎義祐。

山口百恵の「エデンの海」と組むGWの番組は、魅力の文芸二大作として、かつてない大きな力を発揮することでしょう。

ものがたり

私は浅田けい子、恵明大学の三年生。クラスメイトの中には、早くも〝私だけのあいつ〟をみつけて学生結婚してしまったヤツ。だが、そのために男子学生をひとり失恋させてしまったのだが……。〝あいつと〟と心に決めていた男に裏切られ、輪姦されて学校を去っていった学生運動の女闘士だったヤツ、などがいた。

同じゼミの黒川三郎を〝私だけのあいつ〟と意識し始めたのは、あいつを冬のプールに突き落してからだったと思う。それは、私たち女共の群衆心理から——ほんとは、そんなことしなくてもよかったのだけれども——一寸生意気な口をきいた、一寸カッコいいサブちゃんをよってたかっていじめてやったのだった。※



《カラー作品》

あいつと私

原作■石坂洋次郎（新潮社版）
監督■河崎義祐

※黒川三郎の母上は、有名な美容師モトコ・桜井。なぜか旧姓を名乗っている。サブちゃんの説明によれば、いつも独身のような気分でいたいからなんだそうだけれど私には割り切れない気持ち。だけど、もっと割り切れないのは、彼女は一週間交代で、素敵な若い男を自分の家の自分のベッドに連れ込んで夜の相手をさせているということ。これもサブちゃんの説明によれば、世の中には、奥さんがあっても浮気をする男がたくさんいるじゃないか。その反対があったって、ちっとも不思議じゃないぜ。

私が初めて〝あいつ〟とキスをしたのは、あいつの別荘へみんなでスキーに行った時だった。その日は私にとっては、色々とショックの続いた日だった。すでに私の心の大部分を占めてしまったあいつの、いろいろな秘密の面を知ってしまったからだった。一つは、あいつの高校時代の恋だった。その恋人は、モトコ桜井のお弟子さんで、いまもあいつのそばにいて、私にあいつのことを色々と教えてくれるのだ。もう一つは、あいつの出生の秘密だった。モトコ・桜井のボーイフレンドの一人と思っていた阿川があいつの本当の父親だったのだ。阿川は、アメリカにあるいくつかのホテルのマネージャーの地位をえさに、あいつをアメリカへ連れて帰ろうとしている。

あいつの誕生日、私と、あいつと、モトコ桜井と、あいつの父と、あいつの恋人だった人とあいつの本当の父阿川。みんな世間の常識からみると、一風変った人達。が一つ屋根の下に集まった。しかし、みんなにくめない人達。それは、みんな自分の道をまっすぐ生きているからだろうか。その日、なぜかみんなの心が、お互いに分り合える事件が起ったのだった。